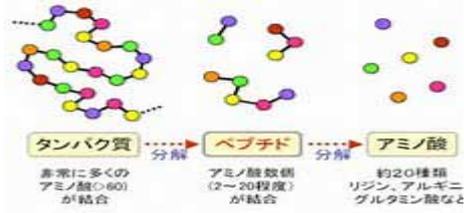




9/13 NST 学習会の報告です。参加者 26 名でした。

消化態栄養とペプチドについてネスレの担当者から、検査データーについて検査課 稲葉さんよりお話しをいただきました。



消化態栄養剤の特徴として窒素源がペプチドで構成されていて消化の過程が不要。ペプチドは腸粘膜機能低下時でもペプチド吸収チャンネルは維持（ペプチドチャンネルは絶食など腸内環境が悪化すると発現が促進される）されるので成分栄養剤よりも有利なのです。

## 栄養セット

毎週火曜日に測定。

栄養セット 【NST初回時・終了時】

項目：TP、ALB、T-CHO、CHE、プレアルブミン、CRP、BUN、CRE

血算6種

栄養セット 【NSTフォローアップ】

項目：ALB、CHE、プレアルブミン、CRP、BUN、CRE

静的栄養指標	動的栄養指標
血清総蛋白	Rapid turnover protein(RTP)
アルブミン	・プレアルブミン
総コレステロール	・レチノール結合蛋白
コリンエステラーゼ	・トランスフェリン
尿中クレアチニン	蛋白代謝動態
血中ビタミン	窒素平衡
微量元素	アミノ酸代謝動態
末梢血リンパ球数	アミノグラム
	分岐鎖アミノ酸/芳香族アミノ酸比
	分岐鎖アミノ酸/チロシン比

蛋白代謝、免疫能、脂質代謝を反映することができる栄養評価のスクリーニング方法として CONUT スコアがあり、NST 介入時に測定する栄養セット 1 では必要な項目を測定することができます。

動的栄養指標として用いられるプレアルブミンは約 2 日間の栄養状態を表すため、定期的に検査することにより以前より栄養状態が上昇して来るとかの評価をすることができる。しかし、プレアルブミンは炎症によって低下してしまうため、CRP を同時にチェックする必要があります。炎症などがある場合は比較的影響の少ないコリンエステラーゼを使用するとよいかもしれません。

次回の学習会は 10月11日 第2水曜日 17:30~ です。

テーマ「口腔ケア」 講師：歯科衛生士 佐藤 美智代さんです。

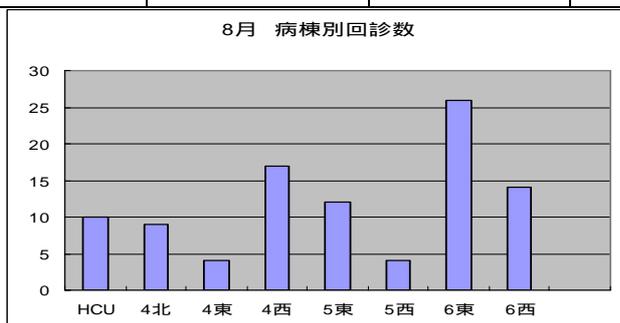
日頃、口腔ケアなどでわからないことがあれば是非参加して聞いてください。

どなたでも参加できるオープン形式ですので、お気軽にお越しください。



8 月分の実績です。

	TPN(延べ人数)	EN(延べ人数)	PEG造設数	新規介入数	延べ回診者数
8月	125	581	0	27	96



NST の介入患者さんは週 1 回の体重測定、毎週水曜日に SGA 評価の実施を宜しくお願いします。

TPN・・・中心静脈栄養（高カロリー輸液）

EN・・・経腸栄養（経鼻・胃ろう等からの経管栄養）

文責：NST 専従 管理栄養士 飛鳥田 智子